

氏名	岸本真希子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3470 号
学位授与の日付	平成19年9月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	The Dysbindin Gene (<i>DTNBPI</i>) Is Associated with Methamphetamine Psychosis (DTNBPI遺伝子は覚醒剤精神病に関連する)
論文審査委員	教授 阿部康二 教授 大塚頌子 准教授 浅沼幹人

学位論文内容の要旨

dysbindin (dystrobrevin-binding protein 1) の発現低下が脳内のグルタミン酸システムの機能低下等を通じて統合失調症の病理へ関与することが示されている。多くの民族において dysbindin をコードする DTNBPI 遺伝子と統合失調症との関連性が示され、さらに精神病症状のある双極性障害との関連も示された。覚醒剤精神病は統合失調症の薬理的モデルと考えられており、我々は DTNBPI 遺伝子上の3つの多型 (P1655、P1635、SNPA) において覚醒剤精神病と健常対照群で関連解析を行った。P1635 と SNPA の遺伝子型とアレル頻度において有意差が認められた。3つの SNP は連鎖不平衡にあり、ハプロタイプ解析で C-A-A ハプロタイプは保護的因子であることが示され、これは統合失調症や精神病症状のある双極性障害における結果と一致していた。また C-G-T ハプロタイプは、覚醒剤精神病の強い危険因子であることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、統合失調症との関連性が示唆されている dysbindin 遺伝子について、3つの遺伝子多型 (P1655、P1635、SNPA) において覚醒剤精神病患者197例と健常対照者243例で遺伝子関連解析を行ったものである。その結果、まずP1635とSNPAの遺伝子型とアレル頻度において両群間で有意差が認められた。次いで3つの遺伝子多型は連鎖不平衡にあり、ハプロタイプ解析によりC-G-Tハプロタイプは、覚醒剤精神病の強い危険因子であることが示された。さらにC-A-Aハプロタイプは同病の発症保護因子であることが示され、これは統合失調症や精神病症状のある双極性障害での既報結果とも一致しており、同ハプロタイプが精神病症状に対する一般的保護因子である可能性も示唆された。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。